

令和2年度 紀の川市立 安楽川小学校 スクールプラン

◆ 学校教育目標 ◆

人権尊重の精神を基盤に、知徳体の調和のとれた児童の育成を図る。
～「確かな学力」の定着・向上、「豊かな心」の育成、「健やかな体」の育成～

■ 研究主題 ■

「筋道立てて考え、考えたことを表現できる子供の育成」
～思考スキルを活用した授業づくりを通して～

◆ 育てたい児童の姿 ◆

「強く、正しく、仲よく」(+「あいさつ」)

- 夢と希望を持ち、自ら進んで学習に取り組む子供
- 自分も友達も大切にし、思いやりのある子供
- 心身ともにたくましく、ねばり強く挑戦し続ける子供

◆ 前年度学校関係者評価

新型コロナウイルス感染防止による臨時休業に伴い未実施。

◆ 保護者・地域の願い

- 自分を認められる子供になってほしい
- 誰とでも仲良くし、素直で思いやりのある子供になってほしい
- ねばり強く最後まで取り組むことのできる子供になってほしい
- マナー・ルールを守れる子供になってほしい
- 自分から元気にあいさつできる子供になってほしい

◆ 児童の実態

- 素直で、人の話を聴くことができる
- 学校のルールを守ることができる
- 人見知りで、進んであいさつができない
- 自分に自信を持つことができにくい
- 経験不足、積極性に欠ける面がある
- 生活習慣が定着しにくい
- 言われたことしかできない傾向がある

- ◆ 「教育基本法」、「教育振興基本計画」
- ◆ 「学習指導要領」

- ◆ 「県第3期教育振興基本計画」
- ◆ 「県学校指導の方針と重点」
- ◆ 「県学力向上対策中期計画」
- ◆ 「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」

- ◆ 「紀の川市学校教育指針」

- ◆ 「安楽川小学校教育計画」

◆ めざす学校の姿 ◆

「地域と共に歩む学校」

～「みんなでつくる みんなの“あら小”～

- 子供たちが自慢したくなる学校
- 家庭や地域から信頼される学校
- 活力ある地域コミュニティづくりに貢献する学校

◆ 在るべき教職員の姿 ◆

「優しさで誠実さを備え、高い志をもって、子供と学び合う教職員」

- 子供一人一人の個性を引き出し可能性を伸ばす教職員
- 規律を重んじ、子供と真剣に対峙する教職員
- 自己研鑽に励み、指導力を高め合う教職員

学校運営協議会
“あら小”応援団

重点目標

具体的取組

指標

① 「確かな学力」の定着・向上(知)

- 基礎・基本の確実な定着
- 「論理的思考力」を高めるための授業づくり・指導方法の工夫・改善
- 読書活動の推進
- 家庭学習の定着

- 朝学(「漢字博士試験」、計算プリント「読書」)を徹底実施します。
- 外部機関等の知見を有効に活用しつつ校内研修を充実します。
- 「読み聞かせ」や「お気に入りの一冊を紹介しよう」等読書へ誘う取組を充実します。
- 各家庭の協力を得ながら家庭学習の習慣化・定着化を図ります。

- 全国学力調査・県到達度調査で全国・県平均を上回る。
- 「国語・算数・理科の授業はよく分かる」(児童評価 各教科90%以上)
- 「子供は、授業が楽しく分かりやすいと言っている」(保護者評価90%以上)
- 「たくさん読んで賞」獲得児童数(年間20人以上)

② 「豊かな心」の育成(徳)

- いじめの未然防止、早期発見・解消
- 互いに認め合える仲間づくりの推進
- 決まり・ルールを遵守した学校生活の推進

- 年3回(各学期に1回)、「いじめアンケート」を実施します。
- 互いの良いところを見つけ発表し合える機会を、より多く設けます。
- 児童会の自主活動や、縦割り活動など、子供が主体的に活動・活躍できる機会を増やします。

- 「学校に行くのが楽しい」(児童評価97%以上)
- 「子供は、学校へ行くことを楽しみにしている」(保護者評価90%以上)
- いじめ解消100%
- 不登校を0に近づける(なくす)

③ 「健やかな体」の育成(体)

- 基本的な生活習慣の定着
- 体力・運動能力の向上
- 「運動の楽しさ」が実感できる体育授業の充実
- 運動習慣の形成・定着

- 「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨し、基本的な生活習慣を確立させる。
- 年間を通じ、定期的に「あいさつ運動」の取組を実施します。
- 「朝トレ」をはじめ、季節に即した取組を計画的に実施します。
- 全国スポーツテストを徹底実施します。

- 「よく運動をして体をきたえていた」(児童評価85%以上)
- 「朝ご飯を食べた」(児童評価90%以上)
- 「決められた時刻までに就寝した」(児童評価70%以上)
- 全国スポーツテストでA層10%以上、AB層合計35%以上、DE層30%未満にする。

④ 「コミュニティ・スクール」の推進

- 教育活動の保護者・地域への情報発信の推進
- 「あら小応援団」の発足等、地域や保護者の協力を得た学校教育活動の充実
- 学校・家庭・地域の協働活動の推進

- 校報や学級通信を毎月発行し、学校や学級の取組を紹介するとともに、考えを伝えます。
- HP、地方紙等マスコミを活用し、保護者・地域に学校の取組を情報発信します。
- 保護者・地域と一体となって見守り活動を実施します。
- 育友会活動に主体的に関わります。
- 「あら小カフェ」の発足に努めます。

- 「学校の様子がよく伝わった」(保護者90%以上)
- 「子供の様子を積極的に伝えた」(教員90%以上)
- 地方紙等で学校の取組が紹介される。(年5回以上)
- 学校支援ボランティア活用件数(年間10件以上)